

## 1 事業総括

新規開始者数は通所、訪問とも前年度と比較すると増加しているが、事業終了数は新規開始者数よりも多く（通所18人、訪問3人）、平成28年度は、年間を通じての利用者数及び月初人数は減少し、定員を割り込むことになった。その理由としては、通所事業における支援プログラムやOB支援事業などを通じ、多くの利用者が地域生活に安定的に定着したことが挙げられる。

しかしながら、安定的な事業継続のため、事業利用者の確保は課題である。千駄ヶ谷荘の退所者のほとんどが就労によるもので、退所後は通所する時間が無い等の理由で通所事業の利用を希望しないケースが多い。そのため今後は、継続した地域生活支援の必要性を利用者に伝え、就労継続支援の強化、個別の支援プログラムの充実を図ることで事業利用者数の増加を図っていく。

その他、通所事業案内をメインとした施設説明会を開催することで、福祉事務所のケースワーカーに向けて、地域生活からの通所事業直接利用の活用も周知していく。

	定員		28年度実績 新規開始数（対定員利用率）						27年度実績 新規開始数（対定員利用率）					
	通所	訪問												
通所	27人		16人（59.2%）						15人（55.5%）					
訪問	3人		3人（100.0%）						2人（66.6%）					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	
通所	24	23	22	22	24	21	22	23	21	24	23	24	22.8	
訪問	3	3	3	2	2	1	1	1	1	1	2	2	1.8	

## 2 主要目標に対する成果

### （1）地域生活の定着に向けた柔軟な個別支援の実施

施設機能を活用しながら、個別的就労支援や金銭管理も行い地域生活の定着支援を実施した。安否確認表への記載を徹底。一週間以上安否が取れない利用者に対しては緊急訪問も実施した。

### （2）各種行事やプログラムを通じた、季節感に富んだ支援の展開

他施設へのボランティア活動、地域の夏祭り等へ参加した。調理実習（年3回）、七夕会、忘年会、餅つきなど、一年を通じて季節に合わせた日常生活での楽しみの場を提供した。

### （3）就労者に対する柔軟な支援の展開

仕事上での悩み、ストレスにも丁寧な傾聴を実施した。職業相談員と連携して就労継続支援を実施した。就労者を対象とした弁当調理体験実習や、仕事が休みになる正月期間に無料食事サービスを提供した。

### （4）OB地域生活支援事業による継続性のある地域生活移行支援

通所事業終了者にも緩やかな地域移行を目的にOB支援事業利用を斡旋した。OB利用者も各種行事やプログラムに数多く参加した。

## 3 運営管理

- 履歴書作成援助や面接同行等、きめ細かな個別就労支援を実施した。一度離職した後も、粘り強く再就職支援を実施した。

- 看護師、栄養士の専門性を活かして、個別の健康、栄養相談から、保健栄養教室、調理実習等への参加を促し、地域生活への定着に向けた支援を実施した。

- 通所室を整備して、居場所として安らげるスペースを確保した。利用者の要望も聞き入れ、金魚、熱帯魚などを飼育する水槽や観葉植物を設置し、利用者の通所促進を図った。

- 毎月作成した「通所便り」により各種行事やプログラムの案内を実施した。通所室への装飾として共同作品（ちぎり絵等）の作成も行った。

- 精神疾病により不安定になった利用者が一時入所事業を利用（1人）した。服薬管理や更生施設再入所支援を実施した。

- 借上げアパート事業や社会復帰促進事業、地域の障害福祉サービス等の社会資源を積極的に活用し、地域生活支援を実施した。

- 地域生活からの通所事業直接利用を促進するために、実施機関に出向き、通所事業について説明する機会を設けた。